

第92号

令和2年10月20日発行  
宮崎市神宮西1丁目49-1

TEL:0985-32-2234

<https://www.sanyu-kai.or.jp/>

発行者:石川 智信

# 三友会だより

## 学ぶほど謙虚に、そして美しくなる

石川智信

その朝、妻は義父の下に届けられる宮日新聞の配達を待ち構えていた。今年の9月5日から行われた第10回記念みやにち夢ひろがる小品展の入賞者が掲載されているからであった。浅い溜息をついて、がっかりした表情であった。「世の中には絵の上手い人はたくさんいるのだから簡単には入選しないよ」と言いながら、私はその紙面を横から取り上げて見回した。特選1名、準特選3名が大きく記事の頭に載っていた。確かに妻の名前はなかった。しかしその後小さな字で、10名の優秀賞の名前が記載されていた。そこに妻の名前を見つけた。「あるじゃない、優秀賞に載っているよ」と伝えたと、少し驚いた表情でその部分に見入っていた。そして「でも特選じゃないからね」と新聞から目をそらした。

よほど特選に選ばれる自信があって落胆したのかなと思いきや、30分もたたないうちにいろんな人にメールを送り、電話をかけ始めた。内心は飛び上がるように嬉しかったのである。しかし何せ失語症の身、うまく伝わらない。私が修正した文を送ることとなった。

それからも外出先で知り合いに会うたびに、スマホに撮った入選作品や宮日の記事を見せていた。絵の手ほどきを受けて11年、初めての入選である。「は・じ・め・てよ」と、その感激は高まる一方であった。

以前、まだ習い始めて3年くらいで水彩画しか描いていなかった頃、大胆にも県美展に挑戦したことがあった。入選者の発表当日の日、しっかり落ち込んでいた。「えー、自信があったのに」とその落胆ぶりは今も脳裏に焼き付いている。私のように絵画に疎いものでも、わずか3年の絵画歴で、宮崎の最高峰の美術展に入選するわけがないことはわかることである。しかし当事者は絵を描ける喜びが成果にストレートにつながるような高揚感に浸ってしまったのであろう。

今回、凶らずも優秀賞という栄誉をいただいて妻は謙虚になった。「あの頃の作品は、だめよねー。よくあれで県美展に出したよね、あー恥ずかしい」と言った。

これまで妻は、もうこれ以上失うものはないという開き直りの境地で、前を向いて頑張ってきたのだらうと思う。言葉を失い、右半身の自由を失いながらも、新たな人生を模索してきた。その過程で、時に自分の現状評価が先走ることもあった。しかしそれは自分を奮い立たせるための行為だったのかもしれない。今回の受賞は、新たな精神世界の高みへと誘ってくれたようである。学び、謙虚になった妻の今後に期待してしまうのは身びいきであろうか。

無邪気に喜ぶ妻の横顔は美しかった。

この度「第10回記念 みやにち夢ひろがる小品展」におきまして  
石川万佐子が【優秀賞】を受賞いたしました。



優秀賞受賞作品

『水指のある静物 1』



『思い出の壺』

みやにち夢展で「優秀賞」を  
受賞して

石川万佐子

2015年1月から東京の甲斐清子デッサン教室  
にデッサンと油絵を習いに通いました。甲斐  
先生のバ温まる熱心な指導により、私と一  
緒に習っている山田千代香さんはとても上手に  
なろうと努力しました。初めは、うまく描けずに  
大変なことも沢山ありました。ホテルに帰ってから  
も、絵の話しをして、夜中まで議論したもので  
した。

今年2月、突然、新型コロナのため東京に  
行く事が、難しくなりました。3ヶ月間は、山田

さんの家でデッサンの練習をしていました。

5月に宮崎空港で清武の徳丸晃先生の  
個展を見に行きました。先生の力強い重厚な  
油絵を見て徳丸先生の絵画教室に通うこと  
に決めました。

6月から森の中で鳥の鳴き声を聞きながら油  
絵を習いに行っています。火・金・土曜日の週  
3回・午後1時から5時までみっちり時間の経  
つのを忘れて油絵の練習に没頭していま  
す。

この度、思いがけない嬉しい、賞を頂きました。  
これからも、もっと上手になれるように頑張りたいと  
思います。本当にありがとうございます。

## 短歌に触れて

健幸くらぶ万智 粂田 尚美

いしかわ内科で始まった短歌教室は、現在、健幸くらぶ万智で2ヶ月に1度開催しています。現在は、コロナの影響もあり、ボランティアの受け入れを制限したり、体調不良で参加できない利用者がいたりするため、参加者は少ない状況が続いています。感染症が一刻も早く収束し、ボランティアの制限なく開催できる日が来るまで、これからも参加される皆さんと共に詠み続けたいと思います。

万智の短歌会に参加するようになり、右も左もわからなかった私も、大先輩の短歌に触れるたびに、少しずつ短歌の良さや奥深さ、時には面白さを感じるようになりました。今回は、これまでの短歌会で詠まれた歌の中からほんの一部を紹介させていただきます。

もちもちの触感食感「おしりパン」あんことバターが幸せ追加

粂田 尚美

沈丁花庭に咲きぬし時よりも香り著けく瓶に収まる

音湘 正隆

やれ嬉し黒鯛ちぬの湯引きがてんこ盛りしまった！酒を飲み尽くしてた

清水 高正

和服着たフランス人の孫の夫髭もよく合い初詣かな

永井シノブ

淋しさを紛らさんとて花に問う答えるように咲く折鶴蘭

野崎 壽江

皆さんも、今しかない日常や今感じた想いを31文字の短歌に残してみませんか？  
興味のある方は、奇数月第2土曜日14時からの短歌会へぜひお越しください！！



## 虫の声

祇園デイサービスセンター  
介護士 中河 真稔

朝夕は随分と過ごしやすくなってきました。あれ程鳴いていた蝉の声も、いつの間にか秋の虫達の声に変ってくる頃ではないでしょうか？今回はそんな虫達の声にスポットをあててみたいと思います。

皆様は、童謡の『虫のこえ』を歌ったことはありませんか？や〜れ〜マツムシが〜♪で、始まる、皆様もどこかで聞き覚えある歌ではないでしょうか？その中に出てくる、マツムシ、鈴虫、コオロギ、クツワムシ、ウマオイ・・・以上5種類の虫達が出てくるのですが、皆様はこの中の何種類を知っていますか？ちなみに私は、コオロギしか見たことがありません。

童謡『虫のこえ』では、それぞれの虫の声を・・・。

マツムシ「チンチロ チンチロ チンチロリン」鈴虫「リンリン リンリン リンリン」コオロギ「キリキリキリキリ」クツワムシ「ガチャガチャ ガチャガチャ」ウマオイ「チョンチョンチョンチョン スイッチョン」と明記されています。ふと思い起こすと、このような虫の声を聞く機会というのは、めっきり減ったように思えるのです。

原因として考えられるのは、近年の猛暑・酷暑に繋がっている、環境的な問題、地球温暖化やヒートアイランド現象によって、虫達が子孫を残せないままにある環境にあることが考えられているのです。虫が鳴くのに最適な気温があり、暑すぎると鳴けなくなるのです。「鳴く」ことによってオスがメスを惹きつける行為に繋がっているのです、鳴かないということは虫達にとって死活問題になっているのです。

日本人は、かの万葉集にも詠まれているように、虫の音に耳を傾けてきました。この頃は、マツムシも鈴虫もクツワムシも、秋の虫はすべて「コオロギ」と呼んでいました。平安時代になると、それぞれの虫の音を聞き分け、聞き分け遊びや競い合わせをするようになりました。江戸時代中期には、虫の音を楽しむ文化は庶民にも広まり、屋台に虫籠を並べて売る「虫売り」という商売が生まれたほどです。

虫の音を聞き比べて楽しむ習慣は、世界的にも珍しい習慣にあたるようで、日本語環境で育った我々は、「虫の音」を「虫の声」と認識しているのです。虫の声を聞く機会が少なくなってきた現代ではありますが、悠久の人々が大切にしてきた情趣を、日本人として大切にしていきたいものです。



当院では新型コロナウイルス感染拡大防止のため様々な  
対策を行い、患者様にもご協力を頂いております。



○入口に非接触で体温測定ができるタブレット型サーマルカメラを設置しました。

来院時に体温チェックをお願いしています。

○手指のアルコール消毒をお願いしています。

受付カウンターにアルコール自動噴霧器を設置し、受付される前に手指の消毒をお願いしています。

○自動血圧計を設置し、ご自身での血圧測定をお願いしています。

患者様とスタッフの接触を減らすために自動血圧計での計測をお願いしています(測定結果の白い紙を受付に提出して下さい)。また自宅での血圧測定・体重測定のご協力もお願いしています(無料で血圧手帳をお渡ししています)。

○待合室でのソーシャルディスタンスをお願いしています。

座席数を減らし、アクリル板を設置し飛沫感染・接触感染の予防対策をしています

○その他、ビニールカーテン・フェイスシールド・マスクによる飛沫感染の防止、次亜塩素酸ナトリウム水による拭き上げ掃除も行っています。



## インフルエンザ予防接種のお知らせとお願い

新型コロナウイルス流行のため、本年度のインフルエンザワクチン予防接種について

では、下記の通り高齢者優先で接種を行います。

●令和2年10月1日～ 65歳以上の高齢者の方

料金 (65歳以上の方) 1,200円

●令和2年11月1日～ 64歳以下の方

料金 (64歳以下の方) 3,500円

当院接種期間・・・令和2年12月29日まで



## 涼し気なグリーンカーテン



記録的な猛暑となった今年の夏、いしかわ内科3階デイケアのベランダにはたくさんのゴーヤが実りました！今年のゴーヤは長細いものと丸いものの2種類です。最近のゴーヤには生でも食べられるものもあるそうです。

青空の中にグリーンカーテンが映えて見ているだけでも涼し気です。デイケアの利用者も来所されるたびに「花が咲いたね」「もう収穫時だね」とゴーヤの成長を楽しみにしていました。大きく実ったゴーヤはスタッフやその家族のお腹に入っていました。皮も柔らかく、お子さんでも食べられたそうです。

コロナ禍でいろいろと生活が制限される日々が続きますが、普段の生活の中で何か1つでも楽しみを見つけられると毎日の生活がより充実したものになると思います。皆さんもぜひおうち時間を利用して色々な事に挑戦してみてください。

いしかわ内科デイケア  
作業療法士 中村夕見

## 法人新人紹介



デイケア 看護師 日高美佐子

9月1日入職のピチピチ新人です。早く皆様の顔と名前を覚えたいと思います。よろしくお願ひ致します。



健幸くらぶ万智 介護福祉士 横山啓太

8月に入職し、健幸くらぶ万智で働いています。デイサービス勤務は、初めてですが日々楽しく毎日が充実しています。目指すは心に寄り添った介護士になる事。